

資 料

湯浅純孝鳥類・哺乳類標本コレクション

清水 海渡, 高畑 晃

富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Sumitaka Yuasa Collection of Birds and
Mammals, Deposited in the Toyama
Science Museum

Kaito Shimizu and Akira Takabatake

Toyama Science Museum,
1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

富山市科学博物館では、常に変化する自然を記録するため、多様な生物資料を継続的に収集、保管している。また、県内外の研究者がその生涯をかけて収集した標本コレクションも数多く寄贈を受けている。

今回、富山県の自然保護行政に大きな功労のあった故・湯浅純孝氏が収集された標本を奥様の湯浅淑子氏から寄贈いただいたので、目録として報告する (<https://doi.org/10.6084/m9.figshare.25378543>)。

2. 湯浅純孝氏の経歴

湯浅純孝氏は富山県高岡市出身。1965年に信州大学農学部卒業後、翌年1966年に富山県庁へ農地林務部林政課鳥獣行政担当の職員として入庁。県職員時代には精力的に自然保護行政に従事され、2000年に生活環境部次長自然保護課長を務め、富山県庁を退職。また(公財)日本鳥類保護連盟の富山県支部設立に携わり、1998年の設立から(公財)日本鳥類保護連盟富山県支部長として活躍。県庁退職後、富山県自然博物館ねいの里館長・顧問、(公財)日本鳥類保護連盟理事、富山県環境審議会副会長、野生生物専門部会長などを務めた。2021年9月5日他界。

3. 標本寄贈の経緯

2022年8月に故・湯浅純孝氏の奥様である湯浅淑子氏が来館し、標本の寄贈について打診があった。2022年10月5日付けで拝受し、現在は富山市科学博物館の登録標本として脊椎動物標本庫(TOYA-AvおよびTOYA-Ma)で保管している。拝受に際し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)に該



図1 湯浅純孝氏(湯浅淑子氏 提供)。

当するものに関しては、すみやかに登録博物館における展示のための希少野生動植物種譲受け等届け出(通知)書を環境省へ提出した。

4. 湯浅純孝鳥類標本コレクションの概要

富山県産のものを中心に、鳥類の仮剥製標本417種1,410点からなる。このうち989点は富山県産であり、戦後の富山県における鳥類相を把握する上で、大変貴重な標本が数多く含まれている。県内産で最も古い標本は、1952年6月5日に富山県下新川郡朝日町南保で、鳥類研究者である下山喜多郎氏によって拾得されたチゴモズ *Lanius tigrinus* である。

また1998年より、ロシア沿海地方のロシア科学アカデミー極東支部生物・土壌学研究所鳥類学研究室のヴァリチュク・オリガ氏を中心としたロシアの鳥類研究者と、国際環境保護協力のもと共同調査を実施し、県庁退官後も(公財)日本鳥類保護連盟富山県支部長として継続している(山本, 2008)。その一環で、調査資料の交換も盛んに実施されており、ロシア連邦やその隣国で採集された標本も含まれ、国内でも大変貴重な資料となる。

4.1. 富山県初記録となる標本

富山県の鳥類目録については、清水・高畑（2023）で356種（外来種5種除く）と報告されている。過去、富山での確認記録が公表されていなかったが、本コレクションに標本として保存されていたものがあつたので、以下に記す。これにより富山県の鳥類目録は362種（外来種5種を除く）となった。

4.1.1. ハイイロヒレアシシギ *Phalaropus fulicarius*

1984年5月1日に富山県高岡市佐野で拾得されたもの。

4.1.2. コムシクイ *Phylloscopus borealis*

2015年10月16日に富山県富山市奥田で拾得されたもの。

4.1.3. カラアカハラ *Turdus hortulorum*

2006年5月10日に富山県富山市下邑で拾得されたもの、2009年5月2日に富山県富山市長岡で拾得されたもの、2013年10月11日に富山県富山市大山町東黒牧の富山国際大学構内で拾得されたもの3個体の標本がある。

4.1.4. シマゴマ *Luscinia sibilans*

2000年9月19日に富山県富山市長岡で拾得されたもの。

4.1.5. シロハラホオジロ *Emberiza tristrami*

1984年11月16日に富山県小矢部市嘉例谷で拾得されたもの。

4.1.6. コホオアカ *Emberiza pusilla*

1995年10月30日に富山県富山市中島で拾得されたもの。



図2 富山県初記録の鳥類標本。

4.2. 特記すべき県内産鳥類標本

過去、県内での記録が数例しかなく、国内でもごく少数の記録しかないものについて、ここで取り上げる。

4.2.1. コウライアイサ *Mergus squamatus*

1980年1月13日に富山県東砺波郡福野町安居（現在の南砺市安居）の小矢部川で拾得された雄個体である。本種の日本初記録は1986年2月3日に岐阜県の本川川で雌雄が観察されたもの（臼井，1986），国内初の標本は1987年2月10日に新潟県中蒲原郡横越村大字小杉地内（現在の新潟県新潟市江南区大字小杉）の阿賀野川左岸河川敷

内で斃死体が見つかったもの（風間，1988）と報告されている。本標本はこれらの記録より古く、1980年に富山県で見つかったことになり、日本国内初記録となる。過去、富山県内では1989年1月17日に富山市猪谷で観察された記録がある（日本野鳥の会富山，2022）。



図3 コウライアイサの標本。

4.2.2. ヘラシギ *Calidris pygmaea*

1980年9月20日に富山県富山市岩瀬で釣り人によって拾得されたものと、1982年9月18日に富山県富山市四方で拾得された2つの標本がある。本種は、数少ない旅鳥として日本へ飛来し、過去、富山県内では1980年4月28日、1984年4月15日、1986年4月23日、1987年7月30日に富山県新湊市越の潟埋立地（現在の射水市海王町）で、1985年4月15日、1986年4月23日に富山県氷見市島尾海岸での観察記録がある（富山県野鳥保護の会，1989）。国内希少野生動物種に該当。



図4 ヘラシギの標本。

4.2.3. オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*

1973年9月11日に富山県富山市鍋田で左翼損傷の状態で拾得されたものと1987年10月25日に富山県上新川郡大沢野町新村（現在の富山市新村）で右翼および両足骨折

の状態で見つめられた2つの標本がある。どちらも自動車によって轢死された可能性がある。過去、富山県内では1956年9月5日に富山県朝日町桜町、1980年11月15日に富山県新湊市越の湯埋立地（現在の射水市海王町）での観察記録がある（富山県野鳥保護の会、1989）。また、国内でもごく少数が局地的に繁殖している（大倉、2017）。国内希少野生動物種に該当。



図5 オオヨシゴイの標本。

4.2.4. カラフトアオアシシギ *Tringa guttifer*

1970年5月29日に富山県新湊市堀岡（現在の射水市堀岡）で見つめられた標本がある。本種は、数少ない旅鳥として日本へ飛来する。過去、富山県内では1980年8月31日、1980年10月9日に富山県新湊市越の湯埋立地（現在の射水市海王町）で、1987年8月25日に富山県高岡市雨晴海岸での観察記録（富山県野鳥保護の会、1989）、2020年8月23～31日に富山県下新川郡立山町芦嶽寺立山室堂のみどりが池で滞在した観察記録（富山県立山センター、2021）がある。国内希少野生動物種に該当。



図6 カラフトアオアシシギの標本。

4.2.5. チフチャフ *Phylloscopus collybita*

1996年11月22日に富山県富山市蓮町馬場記念公園で斃死体が見つめられ、日本初記録として大西・湯浅（1999）によって報告された際の証拠標本である。報告以降は数少ない旅鳥または冬鳥として北海道から沖縄県まで記録がある（加藤・岸本、2023）。



図7 チフチャフの標本。

4.3. 立山地域における春先の渡り鳥の死亡例標本

1991年5月17日から22日にかけて立山の浄土山、室堂平、天狗平、大谷で見つめられた20種34個体の夏鳥の標本である。過去、立山における春先の渡り鳥の死亡例についてはいくつかの報告があり（富山県野鳥保護の会、1976；富山県自然保護課、1980；松田、2015）、立山では4月下旬から5月下旬にかけて日本海気候の影響で低気圧が本州南岸を東進し、山岳地帯では吹雪となったことが要因と考えられ、1991年5月15日から16日にかけても同じ現象



図8 立山地域における春先の渡り鳥標本。

象が起き、翌日から各地で吹雪によって死亡した鳥が拾得されたものと推測される。

4.4. ロシア沿海地方を中心とした鳥類標本

1992年に富山県とロシア連邦の間では、友好提携が締結され、様々な分野での交流が行われている。渡り鳥については、1988年12月20日に「渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその生息環境の保護に関する日本国政府とソヴィエト社会主義共和国連邦政府との間の条約（渡り鳥（日ソ）条約、現在の二国間渡り鳥等保護条約）」が結ばれた。しかし、締結されてすぐにソ連崩壊があり、条約に基づく活動については少なかった。1998年当時、富山県生活環境部自然保護課にいた湯浅純孝氏から打診を行い、ロシア科学アカデミー極東西部生物・土壌学研究所鳥類学研究室のヴァリチュク・オリガ氏がそれに応じた形で、富山県とロシア沿海地方との間で渡り鳥に関する国際共同調査が開始された（山本，2008）。国際共同調査事業の一環の中で、鳥類標本の交換も実施され、本コレクションは156種255個体の鳥類標本からなる。

最も古い標本は1928年4月9日に採取されたカザフスタンキジルオルダ区カラクム砂漠産のサバクヒタキ *Oenanthe deserti* で（図9）、モスクワ大学動物学博物館旧蔵と記されている。



図9 1928年採集のサバクヒタキの標本。

5. 哺乳類標本コレクションの概要

富山県産のトガリネズミ形目23点、翼手目42点、嚙歯目15点、食肉目1点の計81点の仮剥製およびフラットスキン標本からなる。湯浅氏は、1980年代から有峰湖周辺をはじめ、県内各地で小型哺乳類の生息調査を実施しており（湯浅，2003；自然博物館センターねいの里，1982；自然博物館センターねいの里，1985；自然博物館センターねいの里，1986）、その証拠標本が多く含まれている。

5.1. 翼手目標本

翼手目については、2科11種42点の標本がある。最も古いものは1981年9月18日に黒部湖右岸トンネルで拾得されたコテングコウモリ *Murina ussuriensis* であった。

注目すべきものとして、富山県朝日町越道峠で2001年6月4日に記録されたヤマコウモリ *Nyctalus aviator* がある。過去、本種おけるに県内の記録は富山市呉羽1例、富山市有峰1例、そして本標本の朝日町越道峠1例の計3例であり（富山県生活環境文化部自然保護課，2012）、その証拠標本となる。

5.2. トガリネズミ形目標本

トガリネズミ形目については、3科8種27点の標本がある。最も古いものは1984年10月7日に立山町浄土山で拾得されたトガリネズミ *Sorex shinto* であった。

注目すべきものとして、立山町真砂岳にある内蔵之助山荘で拾得されたアズミトガリネズミ *Sorex hosonoi* 2点がある。この2点は内蔵助山荘の管理人によって拾得されたもので、1999年4月7日および2009年5月である。本種は、本州山岳域の標高2,500 m以上になる高山地にのみ生息する固有種であり、その生態についてはよくわかっていない（Moribe，2015）。過去、県内では室堂、鏡石平、国見岳で記録があり、立山連峰の2,500 mを越える地域に広く生息していると考えられており（富山県生活環境文化部自然保護課，2012）、本標本は貴重な県内産標本である。

また、1985年10月1日に富山県新湊市布目で拾得されたジネズミ *Crocidura dsinezumi* 1点がある。この標本は、体毛が全身白色であり、ラベルには完全白化個体と記述があった。過去、ジネズミにおける白化個体の記録はなく、毛色変異の証拠標本として興味深い。



図10 ジネズミ（白化個体）の標本。

5.3. 嚙歯目標本

嚙歯目については、3科7種15点の標本がある。最も古いものは、1984年8月2日に称名溪谷で拾得されたヤチネズミ *Myodes andersoni* であった。注目すべきものとして、2010年9月15日に南砺市平村田向にて拾得されたニホンモモンガ *Pteromys momonga* 1点がある。県内では富山市、立山町、南砺市の山地でいくつかの記録があるが（富山県生活環境文化部自然保護課，2012），本地域のものは初報告となる。

5.4. 食肉目標本

食肉目については、1989年8月24日に立山町芦峠寺美松で轢死していたところを拾得されたオコジョ *Mustela erminea* がある。本州では中部山岳地域、関東山地の一部、東北の山岳地に生息しており（Masuda, 2015），富山県内でも立山連峰の山地で生息が確認されているが（富山県生活環境文化部自然保護課，2012），県内での標本数は少なく、貴重な富山県産の標本である。



図11 ホンドオコジョの標本。

6. まとめ

本標本群は故・湯浅純孝氏が生涯をかけて収集されたものであり、貴重な資料として当館の登録標本として保存している。寄贈いただいた湯浅淑子氏からも、博物館資料として活用されることを期待すると託されたものであり、今後は県内のみならず国内外の研究者によって本標本群が活用されると幸いである。

7. 謝辞

湯浅淑子氏をはじめ故・湯浅純孝氏の御親族の皆様には貴重な標本を寄贈していただいた。富山高等専門学校の上本有希准教授には引用文献を提供していただいた。富山雷鳥研究会の松田勉氏には、立山での鳥類記録について情報を提供していただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

8. 引用文献

- 風間辰夫，1988. 日本で初採取されたコウライアイサ *Mergus squamatus* について. 山階鳥類研究所研究報告，(20)：116-118.
- 加藤ゆき・岸本登己子，2023. 神奈川県藤沢市における *Phylloscopus collybita* の観察記録. 神奈川県自然誌資料，(44)：39-41.
- 松田 勉，2015. 立山における鳥類の記録（1969～2014）. 富山市科学博物館研究報告，(39)：125-140.
- Moribe, J, 2015. *Sorex hosonoi* (Imaizumi, 1954). In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (Eds). *The Wild Mammals of Japan, Second edition*, pp. 4-5. Shoukado Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto.
- Masuda, R, 2015. *Mustela erminea* (Linnaeus, 1758). In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (Eds). *The Wild Mammals of Japan, Second edition*, pp. 254-255. Shoukado Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto.
- 日本野鳥の会富山，2022. 愛鳥，(78).
- 大倉史雄，2017. 北海道におけるオオヨシゴイの確実な初繁殖記録. 鳥類標識誌，(29)：47-51.
- 大西敏一・湯浅純孝，1999. 日本におけるチフチャフ *Phylloscopus collybita tristis* の初記録. 日本鳥学会誌，(47)：73-76.
- 清水海渡・高畑 晃，2023. 富山県の鳥類目録. 富山市科学博物館研究報告，(47)：109-111.
- 自然博物館センターねいの里，1982. ねいの里だより，(3).
- 自然博物館センターねいの里，1985. ねいの里だより，(11).
- 自然博物館センターねいの里，1986. ねいの里だより，(12).
- 富山県立山センター，2021. 立山自然保護センター業務報告書，52p. 立山貫光ターミナル株式会社.
- 富山県生活環境文化部自然保護課，2012. 富山県の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012, pp. 19-30. 富山県生活環境文化部自然保護課.
- 富山県野鳥保護の会，1976. 立山の鳥獣. 中部山岳国立公園立山黒部地区学術調査報告（財団法人日本自然保護協会・富山県自然保護協会編），pp. 71-403. 富山県.
- 富山県自然保護課，1980. 気候と鳥獣との関係. 富山県

- の鳥獣（富山県自然保護課編），pp. 1-12. 富山県自然保護課.
- 富山県野鳥保護の会，1989. 富山県の鳥類－自然環境管理計画策定のための調査－，104p. 富山県農地林務部自然保護課.
- 臼井俊一，1986. 野鳥識別ノート12（コウライアイサ・伊東恭博撮影）. 野鳥，（51）：5.
- 山本有希，2008. 富山県とロシア沿海地方との渡り鳥共同調査事業に関する一考察－環境・国際理解教育の新しいかたちを探る試み－. 富山商船高等専門学校研究収録，（41）：93-97.
- 湯浅純孝，2003. 2-2) 哺乳類（コウモリ目）. 生物多様性調査（大蓮華山地域）報告書. pp107-113. 環境省自然環境局生物多様性センター.